



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和8年9月号

〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381

TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

残暑が厳しいですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いよいよ長い夏休みを終え、学校生活が再開します。ここまで大きな事故や事件の報告がないことで安堵しております。登校が始まりますので、再び、地域の皆様から子供たちへの温かいお声掛けや見守りにご協力いただけますと幸いです。

「教訓を、未来の命につなぐ」

校 長

夏休みに入って間もなく大きな事件がありました。このたび熊本県で発生した地震により、お亡くなりになった方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また被災されたすべての皆さまへ一日も早い復旧、復興を心からお祈りいたします。

今回の地震では、多くの方々が速やかに避難する一方で、その後の行動や安全確保の在り方について様々な報道、議論などがされています。災害時には一つの判断、一つの指示が人命に大きく関わることを改めて考えさせられました。

やはり学校にとってなにより大事なことは「すべての子供の命を守ること」です。

何度か避難訓練の様子をお伝えさせていただいているように、本校では災害発生時には速やかに安全な場所に避難を行い、避難現場で全児童の安否などを確認します。もし所在が確認できない児童がいる場合には、状況を正確に把握し、教職員が連携して対応するようにしています。

しかし、これまでの訓練では、そこから先の状況まで十分に想定できていたとは言えません。余震が続く状況や建物の崩壊、火災などの危険がある中での判断についての明確な基準はありません。教職員が個々の判断で校舎へ戻ることは、救助する側の命も危険にさらすことになりかねません。そのため「戻るか否か」の判断を個人に委ねるのではなく、状況や安全性、関係機関との連携を踏まえ組織的に最善と思われる判断を下し、行動しなければなりません。様々な場面を想定しておくことと、瞬時の判断、指示が重要であることを再認識いたしました。

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。少し前には長崎県の小学校では音楽準備室から出火し、多くの子供が危険にさらされる事案が報道されました。本校と似た教室配置であるため、本校職員で「もし本校で発生したら」を考えました。今回の熊本での出来事も遠い地域の事として受け止めるのではなく、本校での防災体制や避難方法を改めて見直し、子供たちにも自らの命を守る力を育むとともに、教職員も適切な判断と行動ができるよう、本校の状況に照らし合わせて研修を行い、備えを重ねていかなければと感じました。

また地域や保護者の方々に力をお貸しいただかなければならない状況となる可能性もあります。皆様には本校の防災に関する取り組み、考えをご理解いただき、地域全体で子供たちを守る学校づくりにも今後ご協力をお願いいたします。



熊本県代表有明高校の甲子園での大健闘が被災地の方々に感動と勇気を与え、戻れば、市民や保護者の方にあたたかく出迎えられる報道を目にし、困難な状況の中でも前を向いて懸命に取り組む高校生の姿と地域の方々の表情に、私自身も少し救われるような思いがしました。